

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

科目名		科目コード	単位数	開講期	講義形式
米国特許特論		Z 320	1 単位	3 学期	ハイフレックス※受講生に確認しオンラインの場合有り
U. S. Patent Law					
科目分野		課程領域			
グローバル知的財産		知的財産マネジメント専門科目			
担当教員名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー			
香島拓也	-	メールアポイントにて随時			

関連している科目(履修推奨科目)

知的財産条約特論 1・2	

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

知財マーケットとして、日本以上に米国が重要である。従って、知的財産プロフェッショナルは、日本の特許法、特許制度と同様に、あるいはそれ以上のレベルで米国の特許法、特許制度に関して精通していることが求められるが、判例法(コモンロー)に基づく特許プラクティスは日本と根本的に異なる点も多く、訴訟システムを含めて体系立てて知識を取得する必要がある。また、米国特許法は、2011年に制定以来の大改正を行い、その根幹を大きく変貌させているが、その後も、2013年12月に米国のPLT批准に伴う改正など頻繁に特許法改正などが行われており、常に進化している米国特許の最新情報についてアップデートする必要性が高い。

本米国特許特論での授業の主題は、まず、米国特許制度の全体概要を概観し、米国にて適切な特許取得ができるようにすることである。日本の特許制度については多くを学び、特許制度の概要や特許法の内容等につき理解が深まっていると考えるので、日本の特許制度等をベースに、それとの比較において米国の特許制度を見ていく。具体的には、米国において特許を取得するまでの最新のプロセスを、最新のコモンローおよび法改正の施行状況と実務の観点を加味しながら、具体的に学ぶ。

講義の概要はつぎのとおりである。

- (1) 米国知的財産制度の概要
コモンローを採用する米国法体系における、連邦特許法を含む知的財産保護法制の概要および米国特許訴訟の概要の解説
- (2) 米国特許制度の概要
米国特許法の歴史の変遷および保護対象の変遷
- (3) 米国特許制度の特徴
日本法と対比して米国特許法のユニークな特徴について概説
- (4) 米国特許法改正の概要
2011年9月11日の大改正について主要改正項目の解説を行い、その後の法・規則の改正についても詳細に解説
- (5) 米国特許制度と米国特許出願実務の解説(旧法と新法の適用の違いを対比しながら、米国の重要判例を紹介しながら実務上の重要点を詳細に説明する)
米国への出願/特許対象/出願のための書類/出願の種類/継続する出願/仮出願/法定発明登録/出願公開/情報開示/早期審査/特許要件/審査手続/審判手続/存続期間/許可後手続/等

到達(修得)目標

米国特許制度の概要を知り、知財プロフェッショナルとして米国における権利取得までの手続を行なえるようになる。また、当該手続に対して適切なアドバイスを行なえるようになる。

受講対象者

企業の知財担当者、特許事務所のスタッフ、およびこれらを目指す者。
米国特許の重要性を認識し、米国特許制度において、いま自分は何を学んでいるか、という意識を常に忘れず、講義に参加してもらいたい。米国特許制度の守備範囲はかなり広く、ここで学ばなければならない内容も多岐にわたる。したがって、一つ一つ整理をし、不明な点は積極的に授業の内外を問わず質問してもらいたい。

履修上の注意事項やアドバイス

- ※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。
- ※ 担当する教員は実務家教員とする。
- ※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標

知識領域 (Y軸)		ヒューマンパワー (Z軸)		思考プロセス (X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー		Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー		Z2: 独創力		X2: 構想	
Y3: グローバル法令・実務		Z3: 問題解決力		X3: 調査・分析	○
Y4: マネジメント		Z4: プレゼンテーション力		X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案	○	Z5: 変革推進力		X5: 変革	
Y6: 標準化	○	Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	○
		Z7: リーダーシップ力		X7: 評価・検証	○
		Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	
		Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	

プラクティカム		
イベント / ケース	教育技法	マテリアル / ツール
1	一部ディスカッション	講義/小テスト 教室
評価の方法		
(総合評価項目と割合)	評価の要点	
平常点(出席含む)	10%	毎回、事務室より出席簿を準備する。授業内での的確な質疑応答においては、その内容を評価する。小テストでは、授業の理解度を確認する。
小テスト	90%	
合計	100%	

テキスト・参考図書など		備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください		
テキスト (購入が必要)	講義用資料は適時配布する	列挙した図書は、あくまで参考である。特に②はかなり詳細に記述されているので、より高いレベルでの整理に用いるには良いかもしれない。ただし、ヒキナーは直接読むと消化不良を起こしかねないので注意を要する。したがって講義の内容に集中してもらい、時間的余裕があれば不足分を補うように列挙した図書を用いるべきであろう。
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	①最新版 要点早わかり 米国特許入門／木梨貞男／技術評論社(3024円) ②米国特許出願実務ガイド(現代産業選書―知的財産実務シリーズ)／酒井国際特許事務所企画室／経済産業調査会(6930円)	
参考URL		
特になし		

コマ	学習内容	事前準備・課題	担当者	時間
1	米国知的財産制度の概要／米国特許制度・特許訴訟の概要		香島	90分
	イベント	授業の進め方の解説		
2	米国特許制度の概要	小テストに備え1回目の講義の復習をしておくこと	香島	90分
	イベント	小テスト		
3	米国特許制度の特徴1	小テストに備え2回目の講義の復習をしておくこと	香島	90分
	イベント	小テスト		
4	米国特許制度の特徴2	小テストに備え3回目の講義の復習をしておくこと	香島	90分
	イベント	小テスト		
5	米国特許制度の特徴3	小テストに備え4回目の講義の復習をしておくこと	香島	90分
	イベント	小テスト		
6	2011年米国特許法改正およびその後の法改正の概要	小テストに備え5回目の講義の復習をしておくこと	香島	90分
	イベント	小テスト		
7	米国重要判例と特許出願実務の解説1	小テストに備え6回目の講義の復習をしておくこと	香島	90分
	イベント	小テスト		
8	米国重要判例と特許出願実務の解説2	小テストに備え7回目の講義の復習をしておくこと	香島	90分
	イベント	小テスト		

2026.05

※ 講義日程は、学事ポータルでの講義日程表をご参照ください。

※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。